

人間豆:

ヒューマノイドの存在への反芻

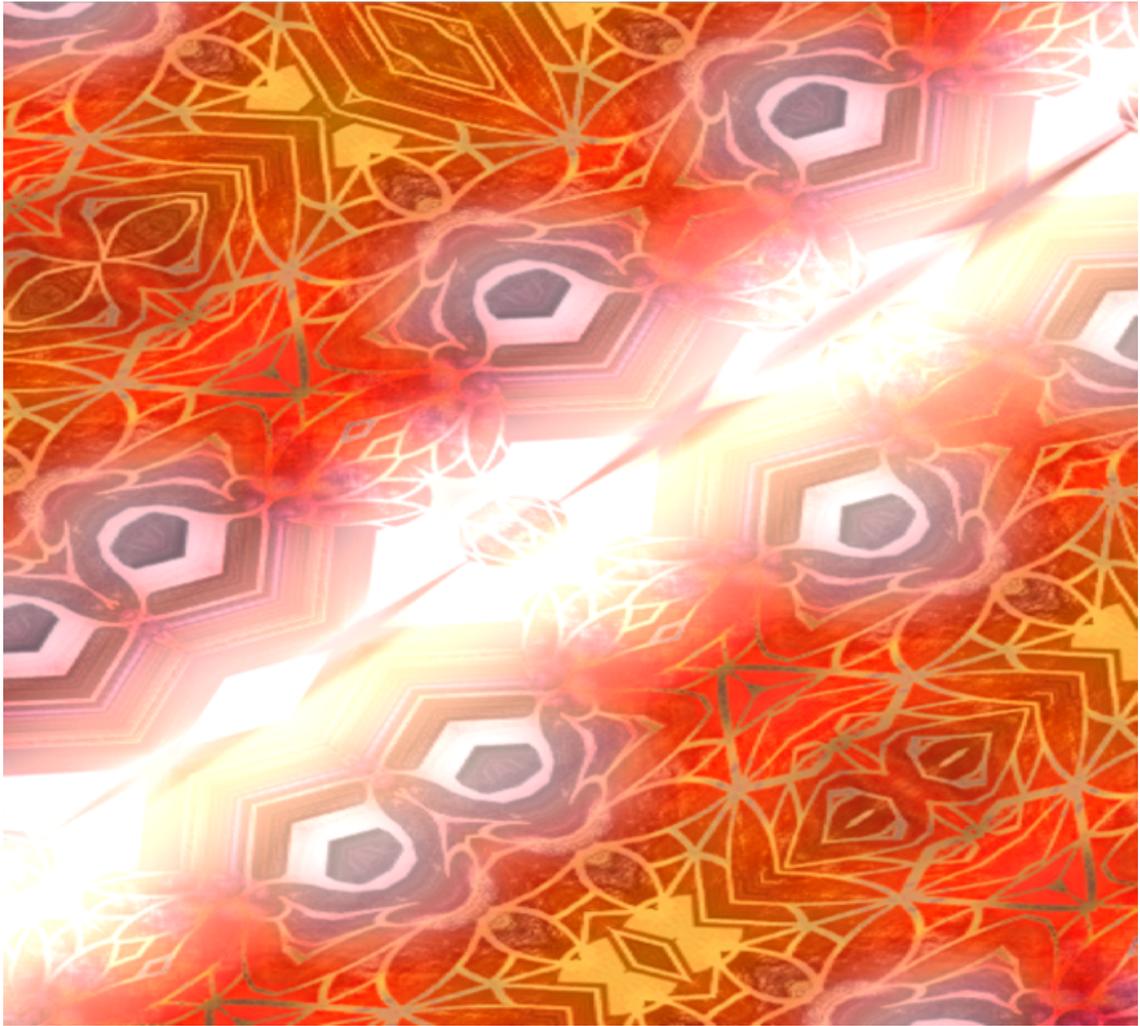
私たちは鍋の中のただの豆
火にかけられ、コトコトと、煮えている
バーナーの火に
炙られ
蒸気に囲まれる

時々
仲間とぶつかりながら
沸、騰、点

だが、鍋が冷めた後
わずかな賢いひよこ豆は
生煮えの豆を見つめながら
気がつく

私たちが
火にかけられたのは
煮られるためでも
蒸発するためでもない

新しい宴の
開催を手伝うため
あったことを



ティン: この詩の印象は？

悟: うーん！それを説明する必要がありますか。

ティン: もちろんだよ！

悟: この詩は人間の力のなさを表したものです。
権力を前に、抗することができない人間の弱さです。

ティム: えっ！そうかな？僕にとって、この詩は死に直面する前の人間の気迫が
伝わってくるな。長時間、煮られながらも、めそめそと、泣き言も言わず
ビューン、ビューンと、鍋の中で勢いよく回っているところが・・・

- T Newfields (和訳: 吉田典子)
開始: 1996年 静岡市 ★ 完成: 2017年 横浜市

